

神のおとずれ 5月号より

「神さまはおられますか」

司祭 マルコ 藤井 尚人



あなたがたはキリストを見たことがないのに愛し、今、見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ち溢れています。

(ペトロの手紙一 1章8節)

私は神さまを見たことはありません。しかし、神さまを信じています。そんな私に聖ペテロはこう言います。

「もし、そうであるならば、あなたは、言葉を越えた素晴らしい喜びに満ち溢れているはずである」。

教会に関心を寄せる人々はクリスチャンにこう尋ねます。「神さまは、おられますか」。さて、わたしたちは、この問いに、どのように答えることができるでしょうか。

パスカルの賭け

「人間は考える葦である」で有名なパスカル（1596年～1650年）は、神さまの存在を次のように証明しています。

- (1) 神がいるか、いないかは確率から言えば2分の1
 - (2) 神が存在しないとすればその恩恵は0。存在すればその恩恵は ∞ （無限大）。
 - (3) その時の期待値は存在しない方は $0.5 \times 0 = 0$ 。存在する方は $0.5 \times \infty = \infty$ 。
- 従って、神は存在する方に私は賭ける。

数学の苦手な僕には何やらさっぱり分からない神さまの存在証明ですが、ようするに、パスカルの賭けとは「神さまがいる、という方に賭けた人生の方が絶対に得である」ということです。

信者でない夫は求道者

どこの教会にも夫がキリスト信者ではない女性信徒はおられます。

信者ではない夫から「もう、教会なんか行くな」と神さまのことで夫婦喧嘩(!)をされた経験もおありのことだと思います。私がここで申し上げたいのは、それは単なる夫婦喧嘩ではなくて、実は、あなたの一番近くの求道者からの「ほんとうに神はいるのか。教えてくれ」という真摯な問いかけなのであり、そして、その時こそ、福音宣教の絶好のチャンスである、ということです。

「でも、牧師でもない私が福音宣教なんて・・・」

どうぞ、御安心下さい。福音宣教をされるのは「神さま」であって、「あなた」ではありません。

あなたに必要なことは、ただ「信仰の喜び」だけです。

なぜなら、信者でない夫は、信者である妻のゆえに聖なる者とされ、信者でない妻は、信者である夫のゆえに聖なる者とされているのです。

(コリントの信徒へ手紙一 7章14節)

マザーテレサの答え

これはマザーテレサが来日された際、カトリック雑誌のインタビュー記事です。

ここまで言えたら、あなたも立派なイエスさまのお弟子さんの一人ですよ。

Q 神をまったく信じない私でも、マザーのところへ助けを求めに行ってもいいのでしょうか。

A わたしにとってあなたは神の子です。あなたが神を信じていないとしても、それはたしの問題ではありません。

わたしは信じています、それでいいのです。

Q 私はどうしても神がいることが信じられないんですが、こんな人間はどうしたらいいんですか。

A あなたがしなければならないこと、それは、祈ることです。

神さま、わたしはあなたを信じます、あなたを愛しています、あなたを信頼しています、わたしの罪をすべておゆるし下さい、と。

それから、どんな小さなことであっても、人を助けるために、何かをすることです。

ただほほえむこと、それだけでいいのです。そして、あなたが人をゆるすことです。

(「愛・日本人へのメッセージ」女子パウロ会)

神さまはおられますか

では、最後に私も、聖アウグスチヌス（354—430）の言葉をお借りしてお答えを申し上げます。

「はい、おられます。

神さまはわたしたちを、神さまに向かうようにお造りになりました。

だから、神さまのうちに憩うまで、わたしたちの魂は決して安らぐことはできないのです」

(姫路顕栄教会牧師)